

かすみがうら市観光基本計画 概要版

私たちかすみがうら市民が「住み続けたい」と感じる地域になるために
市外からも「訪れてみたい」と支持される魅力のある地域になるために

今後10年間の観光の指針となる
「かすみがうら市観光基本計画」をつくりました。

市民の皆様とともに
かすみがうら市の未来を考えながら一つひとつ実行し
観光振興を目指していきます。

令和5年 かすみがうら市



かすみがうら市

計画策定の目的

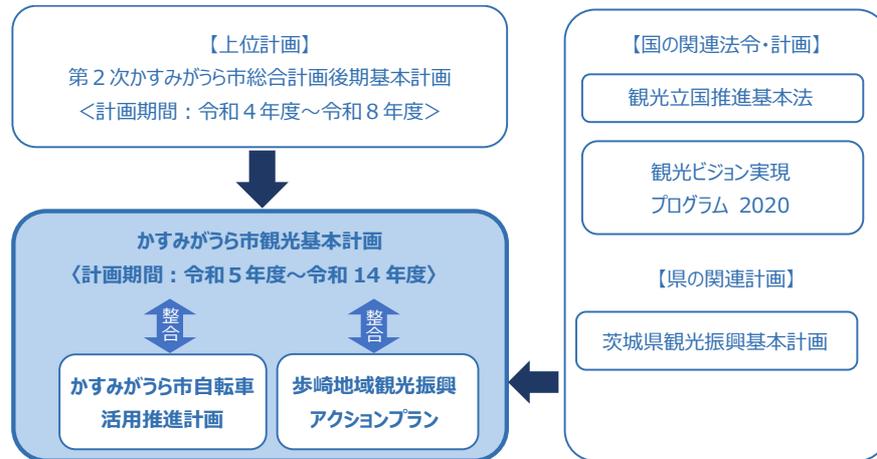
新型コロナウイルスの流行、国内外の観光需要の変化、安全・安心意識の高まりや、SDGs に対する社会的な関心の高まり、情報通信技術の発達によるサービスの質的転換など、近年の観光を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況を踏まえ、中長期的な視点から観光を推進していくために、かすみがうら市が今後 10 年間で進むべき観光の指針として計画を策定しました。

観光に関わる施設や事業者だけでなく、地域住民も含めて、「かすみがうら市の観光のこれから」をともに考えながら、一体となって観光振興を目指します。

計画の位置づけ

『第 2 次かすみがうら市総合計画』に基づく部門計画です。『かすみがうら市自転車活用推進計画』、『歩崎地域観光振興アクションプラン』を包含する観光のマスタープランであり、本市観光振興の旗印となるものとして位置づけます。



計画期間

本計画の期間は 10 年（令和 5（2023）年度から令和 14（2032）年度）です。計画の適切な進捗管理及び社会経済情勢などの変化の把握に努め、5 年を目途に必要なに応じて見直します。



かすみがうら市の観光の現状と課題

TOPIC 1 観光資源の状況



果樹観光

- 千代田地区に農園が集積。
- 土産としての果樹購入が減少。
- 「かすみがうら市=果樹狩り」という周知が不足。



サイクリング

- つくば霞ヶ浦りんりんロードを中心に多数来訪している。
- 立ち寄りたくなる魅力的な食が求められている。



農水産業体験

- ツアーコンテンツの収益化が課題。
- 農業体験での協力農家、圃場確保、漁業体験での時間（早朝の操業）への対応が課題。



湖上アクティビティ

- 観光帆引き船の運営持続のための担い手確保が課題。
- 実施にあたり漁業者側との湖面利用の調整が必要。



ゴルフ

- 市外からの来訪者の多くがゴルフ場の来訪者となっている。
- 周遊が少なく十分に消費ポイントを創り出せていない。



歴史探訪・史跡めぐり

- 歴史好きの層に対して魅力的に訴求するコンテンツ・サービスが不足。
- 各資源に対して歴史的ストーリーの紐づけができていない。



キャンプ

- 4施設が市内に点在しており、利用者は増加傾向。
- アクセス性の改善が必要。
- 市との連携による宣伝・PRが十分でない。



トレッキング・ハイキング

- 雪入山や浅間山においてハイキングコースが整備されている。
- サイクリストとハイカーの共存のための、マナーや安全面のルール化・環境整備の検討が必要。



宿泊

- 市内には5つの宿泊施設がある。
- 各拠点での過ごし方を提案できるマップなどのツールや、観光コンテンツとの連携が課題。



おみやげ品・飲食

- 「湖山の宝」推奨品としてのプロモーションを展開してきたが、認知度が低い。
- 「霞ヶ浦の魚料理を食べたい」という需要への対応が課題。

TOPIC 2 既存施設の活用可能性

- 農村環境改善センター、空き家、廃校などを効果的な運営方法で活用していくために、観光ニーズや市民ニーズに対応した利活用の方策を検討し、地域内での合意形成を図ることが求められています。



農村環境改善センター



空き家

TOPIC 3 新たなニーズへの対応

- 近年の観光市場では、マイクロツーリズム、テレワーク、ワーケーション、地域での生活体験、地元民との交流、地域の課題解決への参画などの需要が高まっています。
- 変化するニーズに対して、各事業者の努力により取組みが進められているものの、その達成度にはばらつきがあり限定的です。
- 地域一体としての連携や意識の底上げが必要です。

TOPIC 4 市民・事業者の意識

- 現状では、市民が観光により実感する恩恵や良い影響が少なく、市民の観光への関心も低い傾向にあります。
- 事業者の考えるコンテンツ・サービスを実現する環境整備が必要です。

TOPIC 5 交通アクセス

- 市内に点在する観光施設をつなぐネットワークが弱いのが現状です。
- 交通手段の確保、わかりやすい案内が求められています。
- 特にバスルートの見直しによるアクセス性の向上が求められています。

TOPIC 6 観光宣伝・PR

- かすみがうら市、観光協会による「湖山の宝」のブランディングやHP、SNS、マップ等、多種多様なツールでの情報発信が進められてきました。
- ターゲットの再考、デザイン性やストーリー性の向上などによる効果的なプロモーションが必要です。



かすみがうら観光アプリの導入



「湖山の宝」によるブランディング



交流センターの
レンタサイクル



つくば霞ヶ浦
りんりんロード

TOPIC 7 体制・組織

- 現状ではかすみがうら市による事業企画のもと、観光施策が推進されています。
- 民間主導の事業推進を目指す一方、新しい事業を創出する事業者が少なく、コロナ禍による取組み（イベント等）の中止等を背景に事業者主体の動きが弱くなっています。

かすみがうら市の核となる価値

観光果樹園での栗、梨、柿、いちご、ぶどう、ブルーベリーや、日本一の産地でもある霞ヶ浦周辺でとれるレンコンや米、サツマイモの生産、水産物についても、ワカサギやシラウオ、その加工品である佃煮などの農水産物、およびその生産者、生産現場を観光振興における核となる価値として位置づけます。

農水産業は、製造業など市内関連産業の関連が多く見込まれること、生産現場の風景と生産者の技、その背後にある文化・歴史にはかすみがうら市の伝えたい価値が多く含まれるものです。

農林水産業における産品およびその生産者・生産現場を核として、その価値を高める取組みを推進します。



かすみがうら市の核となる資源、 「農水産物・生産者・生産現場」の価値を活かし、価値を高める

かすみがうら市を象徴する湖と山、豊かな自然のイメージが定着する（果樹園まち歩き、湖上体験、サイクリングなど）

食の魅力が高まる、地域ブランドの確立
6次産業化（加工販売）、地産地消
魚食文化の再興

農業者の育成
農泊、民泊
関係人口・ファンが増える

方向性と施策展開

「かすみがうら市の核となる資源を観光資源として活かす5つの方策（縦軸）」と、観光を推進していくための基盤として分野横断的に位置づける「かすみがうら市の資源価値を高める分野横断的な2つの方向性（横軸）」に基づいて、具体的な施策に取組み、観光振興を目指します。

戦略①
観光資源を価値あるコンテンツにする

戦略②
地域の事業者・住民の利益となる観光を目指す

「かすみがうら市の核となる資源、
「農水産物・生産者・生産現場」の価値を活かす5つの方策」

戦略③
事業者・住民が自分事として
取り組むための仕掛け・体制構築

「かすみがうら市の資源価値を高める
分野横断的な2つの方向性」

(6) 市民理解、
コミュニティの活性化

(7) 戦略的な
マネジメント

(1) 湖と山が育む「食」の魅力創出

(2) 湖と山をつなぐ自転車の活用

(3) 「歴史・生活文化」を背景とした
体験・体感の仕組みづくり

(4) 湖と山の「自然環境・景観」の保全と共生の実現

(5) 地域産業の持続的発展に貢献する
観光拠点の整備拡充

計画の目標数値



一人当たり観光消費額

県内(市内含む)からの来訪者の平均

R4 1,435円 >> R9 約1,600円

県外からの来訪者の平均

R4 2,345円 >> R9 約4,000円



市民の観光に対する満足度

満足の回答の割合
(大変満足、満足、やや満足の合計)

R4 17.1% >> R9 30.0%

不満の回答の割合
(大変不満、不満、やや不満の合計)

R4 32.6% >> R9 15.0%

5つの方策

かすみがうら市の核となる資源、「農水産物・生産者・生産現場」の価値を活かす5つの方策

(1) 湖と山が育む「食」の魅力創出

- 地域の特色ある地場産品を活用し、食の魅力を最大限 PR することで、誘客を図り、本市のファンを増やします。
- 食材だけでなく、食文化、食を提供する施設、食に関わる人材など、多方面からその魅力を伝え、食の需要を拡大させていくことに取組みます。

【主な取組み】

- ・ 果樹観光の魅力化・収益化
- ・ かすみがうら産の食の価値向上
- ・ 農業漁業、養殖、農水産加工などの現場との接点づくり

(2) 湖と山をつなぐ自転車の活用

【主な取組み】

- ・ サイクルツーリズムの充実など
- ・ 二次交通としての自転車活用の促進
- ・ 健康づくりとの連動による自転車の活用促進

(3) 「歴史・生活文化」を背景とした体験・体感の仕組みづくり

【主な取組み】

- ・ 伝統行事・祭事の継承
- ・ 歴史を軸としたまち歩きコンテンツ造成
- ・ 歴史ガイド人材育成とその活用
- ・ 帆引き船の体験魅力向上
- ・ 地域の手仕事再生プロジェクト

(4) 湖と山の「自然環境・景観」の保全と共生の実現

【主な取組み】

- ・ ジオパークの活用
- ・ 自然環境保全をテーマとしたコンテンツの創出
- ・ 農業・集落の景観形成

(5) 地域産業の持続的発展に貢献する観光拠点の整備拡充

【主な取組み】

- ・ 果樹観光の拠点充実
- ・ 歩崎の誘客拠点の充実
- ・ ワークেশョンの誘致事業
- ・ 宿泊の魅力化

2つの方向性

かすみがうら市の資源価値を高める分野横断的な2つの方向性

(6) 市民理解、コミュニティの活性化

【主な取組み】

- ・ 新たな生活様式への対応
- ・ 市民の地域活動掘り起こしと観光プロジェクト化
- ・ 市外コミュニティとの交流促進

(7) 戦略的なマネジメント

【主な取組み】

- ・ DX化への対応
- ・ プロジェクト推進体制の強化
- ・ ユニバーサルデザインの推進
- ・ 観光リスクマネジメント
- ・ ターゲットに応じたプロモーション
- ・ プロモーション推進体制の強化

計画の推進に向けて

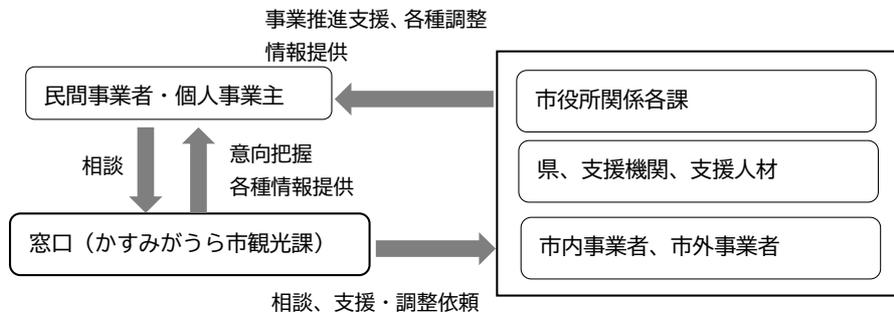
1 庁内・関係事業者の分野横断的な観光推進体制の構築

- 市関係各課、事業者、関連団体、市民・市民団体などのそれぞれの役割のもと推進

2 プロジェクト組成の仕組みづくり

- 様々なプロジェクトが生まれる環境づくり
- 民間事業者が事業を実施する際の相談窓口設置（事業実施のバックアップ、新たな事業への事業者の意向把握、支援機関への取次、連携可能性ある事業者の調整など）

【推進体制のイメージ】



3 観光施策の進捗管理の体制構築

- 観光に関わる各分野の事業者参集による協議の場を設置
- 関係者間での情報共有、新たな事業創出、相互連携等のきっかけづくり



かすみがうら市観光基本計画 概要版

令和5年3月

かすみがうら市 産業経済部 観光課

〒300-0192 茨城県かすみがうら市大和田 562 番地
(霞ヶ浦庁舎)

TEL (代表) 0299-59-2111/029-897-1111